

福岡県議会議員【福岡市博多区選挙区】

# 堤 かなめ

県議会活動報告 平成24年初夏号



被災地の漁業の復旧状況を視察



石巻市の震災がれきの焼却施設を見学



飯塚市の子育て支援事業のひとつ“集いの広場 いいづか”視察

## ◇県議会での役割

- 「総務企画地域振興委員会」委員
- 「少子・高齢化社会対策調査特別委員会」委員
- 「福岡県文化議員連盟」幹事
- 「福岡県『女性研修の翼』実行委員会」委員
- 「福岡県青少年問題協議会」委員

## ◇民主党での役割

- 「民主党福岡1区総支部」常任幹事
- 「民主党福岡県総支部連合会・男女共同参画・人権委員会」副委員長



学力・体力が全国トップレベルの福岡県を訪問し、教育施策を調査

皆さまには、日頃よりのご支援、ご指導に心から感謝いたします。  
県議として2年目を迎え、活動範囲が徐々に広がってきているように思います。様々な役割も与えていただいています。まずはしっかりとその役目を果たしながら、皆さまの声を政策の立案に反映できるよう頑張っている所存です。真面目に実直に一つ一つの課題に取り組みます。

節電の夏が始まりました。熱中症などにも十分気を付けられ、お体ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

2012年 初夏



福岡県議会議員  
堤 かなめ

# 堤かなめ議員による 少子・高齢化社会対策調査特別委員会での質疑より

## 特別支援学校に通う子どもたちが、 地域の学校の子もたちと 交流できるような施策を！

### Q 堤かなめ委員

特別支援学校について一点お聞きしたいと思っております。特別支援学校に通うようになると、地域の学校と連携がなかなかとれない。「二重在籍」のような、両方に在席して何らかの行事の時など、地域の学校に参加できるようにできないか。そうすることで地域とのつながりも出てくるんじゃないかという声が上がっています。

### A 家宇治義務教育課長

居住地における特別支援学校等の子どもたちとの交流ということは非常に重要なことである。そのため、共同学習や交流学習を進めており、特別支援学校と地元の学校との交流は非常に盛んに行われている。子どもが住んでいる地域の学校との交流、こちらも進めていくことが必要であると認識しており新しい事業を考えている。

**補足** 平成24年度の新規事業として、「障がいのある子どもの居住地校交流事業」が実施されることに。モデル地域において、居住地校との交流及び共同学習を年3回行う。モデル地域とされたのは、太宰府市、直方市、久留米市、筑後市、田川市、みやこ町の6校。

## 高校入試における 発達障がいの子もたちへの 配慮について、もっと周知を！

### Q 堤かなめ委員

「県立高校への受験をためらっている子どもが多い」と、発達障がいのある子どもの親御さんからお聞きしています。例えば別室受験や試験問題の文字を拡大するなど様々な配慮がされるようになってきていると聞いておりますが、それを御存

じない保護者の方が多くいらっしゃる。周りの子どもたちがほとんど高校に進学する中で、学力はあるけれども、

いわゆる通常のテストでは発揮できないような子どもたちの保護者の皆さんの不安にどのようにお答えになっていらっしゃるのか、お尋ねいたします。

### 発達障がいへの配慮

- ① 試験時間の延長  
1.3倍長い試験時間に延長
- ② 拡大文字の問題用紙  
1.4倍に拡大された問題用紙
- ③ 別室での受験

大学入試センター試験および県立高校入試において、コミュニケーションの苦手な発達障害の受験生に配慮した試験が行われることになりました。

まだ一歩を踏み出したに過ぎませんが、発達障がいの子もたちの中には読み書きが苦手でも特定の分野で才能を発揮するケースもあり、今回の措置は、そうした力を伸ばすことにつながるものと期待したいと思います。

### A 吉田高校教育課長

発達障害のある中学生の高校受験の問題は、確かに御指摘のとおり。まず一つは、中学校の送り出す側として、先生方の経験の不足、知識の若干の不足。それから受け入れる側として、高校入試の技術的問題、対応上の不慣れなどあり、これまでややもするとそういうケースもあったとお聞きしている。しかし、今では、大学入試の「センター試験」の際の発達障害の子もへへの手順が整ってきている。それを参考にして、今年度から、中学校を対象とする入試説明会において説明を十分にして、誤解や知識不足によって子どもたちがはじかれることのないよう、十分注意しながら取り組んでいる状況。

### ○堤 かなめ委員

入試説明会において中学校の先生たちに周知することは一歩前進だと思いますが、やはり保護者の皆さんたちに直接、情報提供をしていただくことを要望します。よろしくお願ひします。

## 堤かなめ議員による 一般質問

福岡県民の約2割が65歳以上の高齢者です。乳幼児を抱える世帯は全世帯の1割。「福祉のまちづくり」とは、高齢者、妊産婦、障がい者など誰でもが、通勤や通学や自分の行きたい所に行ける、参加したい活動に参加できる、そのような街をつくることです。「福祉のまちづくり」について、次の4点についてお尋ねしました。

### Q1 交通体系のバリアフリー化

交通体系全体のバリアフリー化が必要であることを指摘し、その進捗状況についてお聞きしました。

**A** 「バスターミナル」のバリアフリーはすべて完了。「駅」については「九州バリアフリー等連絡会議」「福岡県地域交通体系整備促進協議会」などに働きかけるなど、あらゆる機会を活用して駅の段差解消の促進に努める、とのお答えでした。

### Q2 ノンステップバスの普及

福岡県では、ワンステップバス(1段のみ階段があるバス)の普及率が45.6%と、全国平均の49.4%を下回っている、またノンステップバス(まったく段差がないバス)の普及率はわずか1.7%でしかないことを指摘しました。国はノンステップバスの普及率を9年後の平成32年度までに70%にするという目標を立てていますが、この目標達成に向けた具体的取組についてお聞きしました。

**A** 経済性などを踏まえて早期にバリアフリー化を進めていくという観点から、主にワンステップバスを含めたバスのバリアフリー化を進めていきたい、とのお答えでした。



### ベビーカー天国

スウェーデンなど北欧諸国では、ノンステップバスが十数年前から当たり前。ベビーカーを折りたたまずに、そのままバスに乗り降りできます。通勤途中にベビーカーを押し保育園に子どもを連れて行くお父さんの姿もよく見かけます。バスのバリアフリー化は、子育て支援、ひいては少子化対策にもなります。



### Q3 ユニバーサルデザインの普及

ユニバーサルデザインとは、できる限り多くの人が利用可能なように、建築、機器、身の回りの生活空間などをデザインすることです。普及のための具体的な方法について小川知事のご所見をお聞きしました。

**A** ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりを全庁的に進めてまいる考え、とのお答えでした。

### Q4 第4回国際ユニバーサルデザイン会議2012

九州で初めて、本年10月に福岡市で開催される「第4回国際ユニバーサルデザイン会議2012」が開催されます。開催を契機に、ユニバーサルデザインの普及や関連する技術の開発が進むことを指摘し、開催の意義や県としての関わり方をお聞きしました。

**A** 県民の方々にとって、交通、住宅、介護、情報伝達など日常生活の全般において、だれもが利用しやすい最先端の技術やデザインに触れるチャンスであり、県としても、この会議を福岡市と共同開催して、多くの県民の皆様にご参加いただけるよう、周知や広報につとめる、とのお答えでした。

初めて予算特別委員会  
で質問させていただきました。  
3月14日から3日  
間連続、「学童保育」「県  
営住宅における子育て支



体からも補助単価の引き上げを  
国に要望するよう要請を受けて  
いる。県としても国の方に毎年  
増額改定を要望している。

援」「私立高等学校への助成等」の3点について質問しました。また21日には「知事保留質疑」という知事と1対1での質疑応答に臨みました。正直なところ準備が大変でしたが、いずれの課題もかなり掘り下げることができました。

一問一答方式ですので、一般質問の「一括質問一括答弁」方式よりも、聞いている方にはわかりやすいと思います。議員と執行部との間で激しいやりとりになることもあります。本議会と同じくどなたでも傍聴できますので、ぜひ一度いらしてください。

## 放課後児童クラブ(学童保育)について

**Q**学童保育は、仕事と家庭の両立支援であり、子どもを安心して育てることができる社会づくりに大きな役割を果たしています。福岡県では、平成26年度までに989クラブの設置を目指すなど、充実に向けた取組みを進めることとしていますが、その進捗状況は？

**A**クラブ数、利用児童数についても増加している。待機児童数については、平成19年度の333人から、平成23年度の85人へと大幅に減少しており、今後も待機児童の解消に取り組む。

**Q**国のガイドラインでは最大70人となっている。70人を超える「大規模クラブ」の解消に向けた取組みは？

**A**平成20年度に68カ所あった「大規模クラブ」が現在は13カ所に減った。今後も小学校の空き教室の活用などにより、「大規模クラブ」の解消を図る。

**Q**地元博多区の学童クラブ2カ所を視察させていただき、非常に狭いという印象を受けた。晴れの日子どもたちが運動場で遊ぶのでよいが、雨の日はとても込み合っており、安全の確保に不安が残る。遊ぶための部屋のほかに、本を読んだり宿題をしたり静かに過ごす部屋が欲しいという声もある。施設整備にさらに努力が必要。また、開設日数や時間の増加にともなう指導員の処遇の改善は？

**A**運営費の助成や加算を行っているが、関係団

**Q**発達障がいなど様々な課題を抱える児童への支援など専門性を高めるため、指導員への研修や、専門家が各クラブを巡回して助言する制度については？

**A**指導員の方々の声を踏まえ、研修の充実に努めてまいる。

**Q**車いすを利用している児童の受け入れについて、施設の整備や指導員の配置は？

**A**指導員を配置するための費用の助成や、スロープなど改修工事、備品の購入などの助成を行っている。

**Q**指導員のさらなる資質向上と処遇改善など、これから質的な整備も必要になってくるが、学童保育の充実に向けた福祉労働部長の決意は？

**A**引き続き、市町村とも連携を保ちながら、さらに県民の皆さんにとって非常に喜ばれる、そういう施設になるように運営の支援なども含めて対応してまいりたい。

## 県営住宅における子育て支援について

**Q**県営住宅においてもっと子育て世帯を支援すべきでは？

**A**若い子育て世帯が入居しやすい取組みを進める。

**Q**現在、県営住宅の入居者の4割が高齢者世帯となっている。若い子育て世帯が入居することで、県営住宅全体の活性化につながるため、ぜひ充実した施策にしていきたい。県としての具体的な取組みは？

**A**今年度に幾つかの団地で試行し、その結果をふまえて導入を図る。

**Q**高齢者や障がいをもつ方々が安心して生活できる施設整備とサポート体制は？

**A**建物のバリアフリー化を図っており、車いす対応住宅を県内に204戸整備。緊急通報システムを備え生活相談や支援を行う「シルバーハウ

ジング]を導入している団地や、敷地内に高齢者集いの場を設置した事例も。地域の子育て支援施設などと県営住宅を合築するなどの手法もあり、県営住宅を建て替える際には地元市町村に意向を聞く。

### 嬉しいお知らせ!

予算特別委員会での堤かなめ議員による質問の後、福岡県は新婚・子育て世帯を県営住宅を通じて応援するため、県営住宅での優先枠募集を始めることになりました。一般募集枠とは別に、県内4地区20団地、30戸で募集の予定です。募集期間は6月1日から11日までです。お申込み手続きなど詳しくは、福岡県庁県市住宅課まで! 電話092-643-3739  
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f17/shinkonkosodatesetai.html>

## 私立学校への助成等について

**Q** 全国で私立学校への補助金改革の動きが広がっている。補助金の傾斜配分や加算措置により、生徒一人当たりの額では約2倍の差がある。役員報酬額などの情報公開は?

**A** 学校法人によって異なる。

**Q** 財務情報の公開度に応じて補助金を増額したり、役員報酬が高い学校法人への補助金の減額を実施しているところもある。学校法人の財務情報などの透明化や公正性を高めるための取組みは?

**A** 学校法人への情報公開の要請について検討する。

**Q** 全体の高校進学率は98%ですが、障がいをもつ生徒の進学率は?

**A** 把握していない。

**Q** 把握していないということ自体、障がいをもつ生徒の教育権の保障についてこれまで意識がなされていなかったということでは? 私立高校のバリアフリー化の取組みは?

**A** 国の補助制度の周知やこの制度を活用したバリアフリー化の促進を要請してまいる。

**Q** 補助金をもっと有効に使用できるよう検討が必要では?

**A** 今後も社会の変化、あるいは私立高校の

置かれた状況に適切に対応した見直しを行ってまいりたい。

## 「知事保留質疑」として、知事に直接質問しました

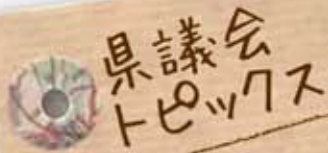
**Q** 私立学校への助成に関しては公正性と透明性の確保を前提とすべき。高校進学率が98%とほぼ義務教育化しているといつてよい状況にあり、配慮を必要とする生徒の受け入れを早急に整える必要がある。また、県内の私立高校では有期雇用(雇用期間に定めがある)の教員の比率が4割、全国ワースト3位となっている。有期雇用の先生も学級担任をしなければ現場は回らないという状況。補助金の配分方法を変えることで、教育環境を守ることができるのでは? また、透明性の確保については?

**A** 財務情報の一般への公開については、受験生や保護者などに、学校を選択する際の情報提供するという意味もあり望ましい。情報公開への取組みが進むように努める。

## 始まった女性職員の積極登用!

新たに策定された「福岡県行政改革大綱」において、今後5年間で女性の登用を具体的に進めていくため、次のような項目が盛り込まれました。ワークライフバランスの推進など、男性にとっても働きやすい職場となっていくことが期待されます。

- ・本県の課長相当職以上に占める女性の割合(平成22年3.5%)について、平成28年度までに6.0%(平成22年の全国平均)を上回ることを目指す
- ・将来の管理職登用を見据え、係長等へ積極的に登用する
- ・女性比率が少ない所属へも女性職員を計画的に配置し、多様な業務経験を通じた育成を行う
- ・研修等を通じて女性の登用に関する管理職員の意識改革を促す
- ・一層の時間外勤務縮減や育児休業者のサポートなど仕事と家庭生活を両立しやすい就業環境づくりを推進する



## 宅老所支援費が実現!

県は2012年度当初予算に、新たな福祉政策として「宅老所支援」を盛り込み、1,259万7,000円を計上しました。県として「宅老所」という名称を使うのも初めてとなります。これは、同じ会派の田辺一城議員が質問した結果、実現した政策です。「宅老所」とは、地域の中で民家を活用しながら、デイサービスに「宿泊」機能を備えた事業を行っており、在宅介護を強かにサポートしています。認知症ケアにも有効とされ、超高齢社会を控え、いっそう広がっていくべき介護の形といえます。しかし、これまでには国の制度から漏れ、都道府県や市町村行政からもサポートを受けられず、事業者は苦しい環境に置かれてきました。

「宅老所」が広がるためには、新規参入を促すような政策や、「夜間の人件費」を補助するといった政策展開も求められます。会派として、引き続き県に支援の拡充を求めています。

## 福岡県のホームページにタイ語、ベトナム語を追加!

2012年度中にタイ語とベトナム語が本県のホームページに追加されることになりました。これは、同じ会派の守谷正人議員が「本県と友好親善協定を締結し、かつ福岡空港との直行便があるタイやベトナムについては本県ホームページにそれぞれの母国語で紹介する必要があるのではないか」との質問により実現したものです。



控室で質問前の最終チェック

## ダイバーシティが成長の突破口

経済産業政策局長 石黒憲彦氏のDND連載からふと見渡してみると他の先進国で活用しているながら我が国で活用していない最たる生産要素は女性です。30歳代で労働力率が下がる、いわゆるM字カーブは日本では依然顕著です。もし仮にM字カーブが解消されて家庭に閉じこもることなく働き続けたとしたら潜在的労働者の数は342万人増え、約6500万人の全就業者の5%が増えることとなります。雇用者報酬も女性が1割増えることで、7兆円増加、これが消費支出に7割回っただけでGDPは1%増加します。結構なマグニチュードを持っていると思いませんか。詳しくはWEBで!

[http://dndi.jp/00-ishiguro/ishiguro\\_177.php](http://dndi.jp/00-ishiguro/ishiguro_177.php)

## 福岡県議会議員 堤 かなめ (福岡市博多区)

議員控室 福岡市博多区東公園7-7 県議会内 連絡先 TEL: 092-432-0101 FAX: 092-432-0102

堤かなめホームページ <http://www.kaname2010.org/>

県議会議事録の検索はこちらから <http://www.gikai.pref.fukuoka.lg.jp/kaigiroku.html>

### プロフィール

博多区那珂校区在住  
昭和35年生まれ  
太宰府小学校、牛頸小学校、大野南小学校、大野中学校で学び、筑紫丘高等学校卒業(バスケット部主将)  
九州大学文学科卒業後  
KDD国際電信電話株式会社に5年勤めたのち、九州大学大学院にて社会学を学ぶ

- 1993年 九州国際大学専任講師となり、のちに教授へ昇格(2001年)
- 1995年 スウェーデン、カロリンスカ研究所に客員研究員として半年間滞在し、福祉の国・スウェーデンの現状を目の当たりにする
- 1997年 虐待を受けた子どもや女性を支援する「アジア女性センター」を立ち上げる
- 2000年 男女共同参画を推進する「福岡ジェンダー研究所」を立ち上げる
- 2002年 渡英。イギリス、サリー・ローハンプトン大学客員教授として勤務
- 2005年 九州女子大学教授
- 2009年~九州大学大学院 人間環境学府非常勤講師
- 2010年 参議院議員選挙福岡選挙区より立候補 176149票を獲得